

オリジナリティのある「家」

インテリアを考える前に
(川崎弘美さん談)

■家を建てる前に、まず「どこに住みたいか」を考える。都会、郊外の住宅地、田舎——。まずは場所を選ぶことが大切。

■「どのように暮らしたいのか」というテーマを持つ。自宅で仕事がしたい、趣味を思いっきり楽しみたい、庭を住宅と一体化させたいなど、暮らしの「核」を決める。

■重要なのは間取り。新築の場合、LDKのほかに趣味の部屋やオーディオルームなどを実現できれば理想的。プラス「普段使わない空き部屋」を用意しておくことで、住まいに余裕が生まれる。既築の場合、空いた子供部屋は「物入れ」にせず、何も置かない「空間」にしておけば客間や趣味の部屋として利用できる。

■窓・ドアといった開口部の数や位置は慎重に考えること。ドアは一部屋に2つあることが理想。窓は多ければいいというものではない。窓がないことで静けさが生まれたり、絵を飾ったりすることもできる。

MEMO

【パルナスインテリアーム】

■住所/大分市中島中央2-3-33

■TEL/097-534-0323

■営業時間/火~金

10:00~17:00(祝日休)

※完全予約制



手書きの洗面ボウルはイタリア製



ドイツ製の生地で作られた大型クッション(右)、リボン付きのクッションもオーダーメイドならでは(左)



インテリアコーディネーター・川崎弘美さん



100年前のワインの様式美でまとめられた川崎さんの仕事場

大切なのは、すべての部屋を平坦にするのではなく、「強弱」をつけること。書斎に凝った分、リビングは安い素材にするなど、「メリハリをついた方が家は面白くなる」と、川崎さんは教えてくれた。

大切なのは、すべての部屋を平坦にするのではなく、「強弱」をつけること。書斎に凝った分、リビングは安い素材にするなど、「メリハリをつけた方が家は面白くなる」と、川崎さんは教えてくれた。(笑)

小さなスペースなら 冒險もできて面白い

とかく、「家ができる」「引越しをしよう」というときにバタバタと決めてしまいがちなインテリアだが、たとえ2ヶ月間かけて選んだとしても、共に過ごす時間はそれ以降の方があずつと長いことを忘れてはならない。「ゆっくりと時間をかけて、自分が本質的に好きなものを選ぶようにし、少しでも迷つたら買わないこと。妥協しないことが失敗しないインテリア選びのコツです」(川崎さん)

さらに、気分の変化や季節によってインテリアを変えたいときは、部屋ごとに取り入れることをすすめてくれた。「例えば、トイレをエスニックにしてもいいじゃないですか。小さなスペースだつたら冒険もできます。私もアールデコが好きだったので、バスルームに取り入れてみたらストレスがなくなりました(笑)」



川崎さんが「和菓子のような椅子」と呼んでいるソファ(試作品)



テレビCMなどでも見かける建築家アルネ・ヤコブセンの革張りチェア



美術館が好きな川崎さんがイメージして作られた回廊(川崎邸にて)

インテリアで大切なのは色と様式を統一させること。家具、照明具、ファブリックを中心には、バリエーション豊かな住空間を提案しているインテリアコーディネーターの川崎弘美さん。「インテリアで大切なのは色と様式です。スタートは布でも照明具でも、どこから入ってもいいんですが、大切なのは全体を統一させていくことです」

住まいの環境「インテリア」の重要性

家具、照明具、ファブリックを中心に、バリエーション豊かな住空間を提案しているインテリアコーディネーターの川崎弘美さん。

「インテリアで大切なのは色と様式です。スタートは布でも照明具でも、どこから入ってもいいんですが、大切なのは全体を統一させ